

[成果情報名] イタリアンライグラスサイレージ混合飼料を用いた群飼による黒毛和種子牛育成

[要約] 月齢や雌雄の異なる黒毛和種子牛を群飼した場合に、イタリアンライグラスサイレージ混合飼料を不断給餌すると、個体に応じた飼料摂取が可能となり、増体量および発育は単飼と同等である。

[キーワード] 混合飼料、黒毛和種、子牛、育成、イタリアンライグラスサイレージ、群飼

[担当] 畜産試験場・大家畜科

[連絡先] 電話 0957-68-1135、電子メール samplus@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 畜産

[分類] 指導

[背景・ねらい]

黒毛和種子牛育成において、イタリアンライグラスサイレージ混合飼料を育成期間(120～240日齢)給与すると分離給与と同等の栄養摂取量および発育であった。しかし、子牛の月齢や雌雄を考慮せず、群飼で飼養される生産現場において、適応可能な技術であるかについては明らかでない。

そこで、イタリアンライグラスサイレージ混合飼料を用いた群飼による黒毛和種子牛育成方法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 月齢や雌雄の異なる黒毛和種子牛を群飼した場合にイタリアンライグラスサイレージ混合飼料を不断給餌すると、飼料摂取量は単飼と同等である(表2)。
2. 月齢や雌雄の異なる黒毛和種子牛を群飼した場合に混合飼料を不断給餌すると、増体量および発育は単飼と同等であり、増体量のばらつきがない(表3, 図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. イタリアンライグラスサイレージを利用した黒毛和種子牛群飼での新たな飼養体系となる。
2. 哺乳期用飼料から混合飼料に切り換える場合は、1ヶ月程度(90～120日齢)かけて徐々に切り換え、混合飼料への十分な馴致が必要であり、育成期間中は不断給餌を徹底する必要がある。

[具体的データ]

表1 給与飼料の成分および配合割合

混合飼料 ¹⁾		配合割合(%)	
DM(%)	44.8	イタアンサイレーシ ²⁾	35.7
TDN(DM%)	74.7	稲ワラ	2.4
CP(DM%)	16.5	トモロコシ	16.7
CF(DM%)	16.1	大麦	12.2
NDF(DM%)	38.8	大豆粕	12.2
		一般ふすま	9.6
		ル-サンベレット	11.2

1) 慣行的な分離給与の5ヶ月齢時点と同等の飼料成分。試験期間中は不断給餌とする。

2) DM25.8%, CP10.6%, TDN69.1%。なおDM, CPは分析値, TDNは日本標準飼料成分表(2001版)の消化率を用い算出。

表2 混合飼料のDM摂取量

単位: kg/日・頭

性	試験区 ¹⁾	n	日齢			
			120~150	151~180	180~210	211~240
去勢	単飼区	5	3.4	4.4	5.4	6.2
	群飼区 ²⁾	4	3.3	4.7	5.0	5.9
雌	単飼区	3	3.8	4.7	5.3	6.2
	群飼区	3	3.3	3.8	4.7	5.9

1) 両区とも飼養面積は6m²/頭。

2) 3~4頭雌雄混合の群飼。供試牛毎の日齢差最大67~85日。

表3 体重推移

単位: kg

性	試験区	n	日齢			DG ¹⁾
			120	180	240	
去勢	単飼区	5	127.5	187.6	254.1	1.06±0.11(10.4)
	群飼区	4	129.5	185.0	250.8	1.01±0.07(6.9)
雌	単飼区	3	113.5	169.0	228.6	0.96±0.03(3.1)
	群飼区	3	125.8	177.5	240.3	0.95±0.06(6.3)

1) 平均値±標準偏差(変動係数)

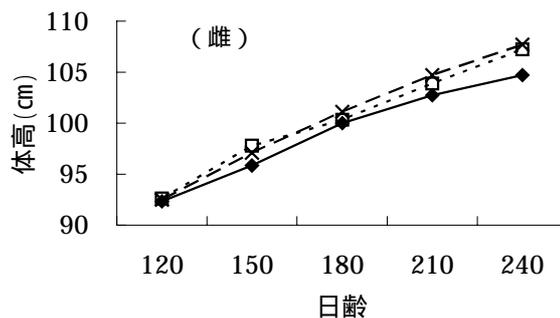
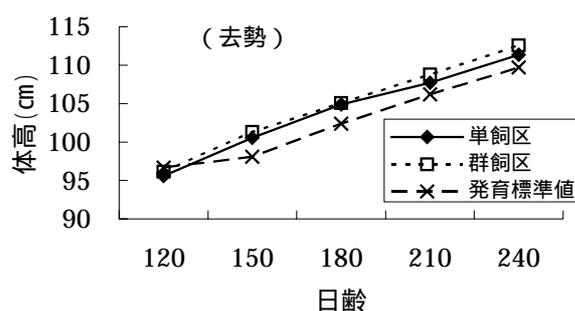


図1 体高推移

[その他]

研究課題: 育成牛の効率的な生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 1999~2005年度

研究担当者: 橋元大介、廣川順太、井上昭芳